

北海道高体連テニス専門部では、10月13日から開催される第42回北海道高等学校秋季テニス大会に向け、新型コロナウイルス感染防止対策に最大限の対策を施し準備をしてきました。また、選手及び大会関係者には大会2週間前からの健康観察（検温）を義務付け、会場からは会場利用当日の健康記録の提出を求められています。

もともと無観客で実施することを前提とした大会準備でしたが、当専門部では、選手・生徒の奮闘する姿を少しでも見ていただくことはできないものか考えを巡らせ、保護者の皆様にも選手・大会関係者同様の健康観察をすることで、会場への入場を許容しようと考えていました。（そこには各種スポーツイベントの現状や、無観客試合として保護者及び補欠部員の観戦を容認した他競技の影響もありました）

日本テニス協会（JTA）では、内閣府の発表及び現状の感染状況をふまえ「JTA公式テニストーナメント再開ガイドライン」によって大会開催時の安全対策をとっています。当初10月以降には、観戦緩和を開始するPhase⑥になると考えていましたが、7月から8月にかけての感染再拡大、9月には感染者減少の鈍化などの影響により、現在はPhase⑤の期間と捉えています。これは、「全国かつ大規模な大会（128名程度以上）都道府県境を越え、地域全国から選手が参加するが、無観客で開催される大会」と大会の規模及び概要を設定しています。このガイドラインをもとに、先日（10/4夜）全国選抜高校テニス大会実行委員会より「北海道高等学校秋季テニス大会実施に向けて、留意事項（2020.9.25）」の一部が、大会開催の条件を満たしていないという指摘を受けました。具体的には、「どのような感染対策を施したとしても、保護者及び関係者の観戦を許可している状況は無観客試合と認めることはできない。よって、全国選抜大会予選として承認することは難しい。」という内容でした。

当専門部では、今大会に向け慎重に準備をしてきた選手が安全に大会に参加できること。感染という事態が起きた場合に予想される他都府県・他地区、そして全国大会への影響。そして、他競技へ及ぼす懸念を考慮し、実行委員会の指摘を受け入れ「無観客試合」として大会を開催するという判断に至りました。

選手のこれまでの努力を無駄にすることのないよう、できる限りの対策を施し大会運営をしていくつもりです。保護者の皆様には今回の判断にご理解をいただき、ご協力をいただけるようお願いいたします。また、コロナ禍での大会準備・運営となります。更新される情報を頻繁に確認していただけるよう重ねてお願い申し上げます。

北海道高等学校体育連盟テニス専門部